

○これまでの有識者会議での論点・意見等

	第1回 (H30. 11. 30)	第2回 (H31. 2. 19)	第3回 (H31. 4. 26)	第4回 (R1. 6. 25)
内容	1、仙台市水道事業の特徴 2、次期基本計画の位置づけ 3、現行基本計画の総括 4、今後の検討の進め方	1、長期的な水需要の見通し 2、水道施設の課題 3、水道事業におけるマンパワーの見通し 4、現行の水道料金制度の課題 5、長期的な財政収支見通し	1、今後の重点課題 2、計画策定にあたって踏まえるべき背景 3、仙台市水道事業の基本理念と将来像（素案）	1、仙台市水道事業アセットマネジメントの方向性 2、仙台市水道施設再構築基本構想 3、本市における広域連携・官民連携の考え方
事務局からの論点	・仙台市水道事業の特徴や他都市との比較 ・人口減少社会に対応できるよう次期計画策定の必要性 ・適切な資産管理の検討 ・事業費、担い手の検討	・大口使用者地下水切り替え要因の把握や対策 ・将来の水道システムのあり方 ・様々な事業形態の検討 ・水道料金のあり方検討 ・時間をかけて議論していく場の設置 等	・ヒト・モノ・カネのバランス、情報・ノウハウ・時間・ネットワークの活用 ・水道システムの最適化 ・持続可能な経営 ・関係者との連携強化	・アセットマネジメントの方向性 ・水道施設再構築基本構想 ・広域連携・官民連携
有識者からの意見等(※)	<p>【基本理念・将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な形で孫や後世に水道事業を引き継ぐことが重要 長期ビジョンを示す際、道路や橋梁等、他のセクションも込で考えると、都市の再構築という視点で、理想形からバックキャストして現在を考えるべき 仙台の魅力、仙台らしさ、景観等どのような形で次世代に引き継ぐか、という視点が必要 <p>【管路更新・想定使用年数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管路更新ペースアップに関し、今のまま更新するのか、維持管理しやすい姿に再構築して更新するかの深堀が必要 <p>【広報・PR】</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス水準についての情報集計をしてはどうか（Ex. 職員数と管理面積の割合等） <p>【災害時等リスクへの対応・広域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備にあたっては災害時に備えたリスク分散を検討すべき 宮城県との広域連携において、仙台市の位置づけは非常に重要 	<p>【基本理念・将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> （上下水の出入り等）水収支を俯瞰した水循環の適正化が、SDGs の考え方にも整合することになる 30～50年後の明確な将来像を示すべき <p>【財政収支・アセットマネジメント・再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> アセットマネジメントへ、再構築を含めた長期財政収支を反映すべき 長期財政収支へ企業債返済能力も考慮する必要がある （人口減少に合わせて水道システムを）再構築する際には、単なる規模の縮小だけでなく、浄水場の統廃合や配水系統自体の見直しも必要 民間資金の活用・官民連携のあり方等、再構築に有効な資金調達方法の検討が必要 水道加入金等の料金以外の収入についてもあり方を検討していくべき <p>【広報・PR】</p> <ul style="list-style-type: none"> H₂O（広報誌）等を見やすくし、認知度を向上させるべき <p>【大口使用者・専用水道・地下水】</p> <ul style="list-style-type: none"> （大口使用者の）地下水専用水道に関するデータを蓄積し分析していくべき <p>【料金】</p> <ul style="list-style-type: none"> 逓増制は、水需要の抑制の目的で導入されたが、今の時代に合わなくなっていること、小口使用者がサービスに見合ったコスト負担をしていないことを考えると、料金体系の見直しの余地がある 水道料金の説明について、コスト面から見せる等の工夫をしてはどうか <p>【マンパワー・技術継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の事業運営のためには、現状の職員数を維持すべき 適切なジョブローテーションや再雇用等、技術継承の取り組みが必要 <p>【災害時等リスクへの対応・広域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害対策の面でも人数の確保は必要 	<p>【基本理念・将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域特性（仙台らしさ）を表現して盛り込むべき 水への認識（恵み、豊かさ等）を改めるべき 基本理念と将来像の議論を、具体的な施策に結び付けることが重要 事業者という言葉の意味合いを明確にすべき 水の持つメカニズムをうまく表現すべき 「仙台市水道サービス公社」の位置づけ、役割を明確にすべき <p>【計画の進捗体制等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況の確認や計画の見直し、公表が必要 効果検証に関する手法と体制を構築すべき <p>【財政収支・アセットマネジメント・再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> アセットマネジメントの具体的な数値目標を設定し、進捗状況を公表してほしい <p>【広報・PR】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の美味しさや安全性をよりPRすべき <p>【大口使用者・専用水道・地下水】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地下水利用の損益分岐や実態の調査が必要 	<p>【基本理念・将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ヒト・モノ・カネ」の考え方について補足が必要 水道インフラのあるべき姿を若い世代で議論すべき <p>【施策体系】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新技術導入等による業務効率化の検討に関し、将来的にはスマートメーターの導入により、時間帯別料金という新たな料金体系が出てくる可能性がある 人材育成の前段として、人材確保の観点も重要 <p>【管路更新・想定使用年数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 想定使用年数について、物理的な機能あるいは施設の確実性について裏付けを持って進めるべき 会計上生じた利益は、今後の更新財源に充てるべき <p>【料金】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世代間負担の公平性の観点も重要 <p>【災害時等リスクへの対応・広域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時も大事だが、将来的には平常時の連携も重要（近隣事業体との課題解決に向けた勉強会や、さらに進んだ取り組みも検討してはどうか） アセットマネジメントの策定プロセスを周辺自治体と共有することも広域連携に繋がる リスク評価とコストのバランスを取る必要がある

(※) …【 】は、意見等の内容を便宜上10種類に分類したもの⇒(1. 基本理念・将来像、2. 施策体系、3. 計画の進捗体制等、4. 財政収支・アセットマネジメント・再構築、5. 管路更新・想定使用年数、6. 広報・PR、7. 大口使用者・専用水道・地下水、8. 料金、9. マンパワー・技術継承、10. 災害時等リスクへの対応・広域連携)。